

平成29年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価表（自己評価）

校 訓	礼節・友愛・創造
学校教育方針	全生寮教育を通して「自他一如の精神（心）」を養い、知恵と勇気と行動力を備えた人間性豊かな人材を育成する。 （１）商業（ビジネス）及び家庭に関する豊かな教養と、専門的知識・技能を兼ね備えた有為な人材の育成 （２）人権に対する正しい理解と知識を深め、基本的人権を尊重する人材の育成 （３）自主的な生活態度と、責任を重んじる人材の育成 （４）文武両道を兼ね備えた、心身共に調和のとれた人材の育成 全生寮教育とは、如何なる状況の中でも身を処して誤らない行動の基準を、集団（学校）生活の中で体得するものである。 【全生寮本旨】 １．自己のうちに もてる全てを 発揮して 生きよう １．全ての 他の人を 生かそう １．全ての 人とともに 生きよう
学校教育目標	（１）商 業 科 ビジネスの基礎・基本の能力を身につけ、企業活動や流通に関する専門的知識と技能を活用して社会に貢献できる人材を育成する。 （２）情報処理科 ビジネスの基礎・基本の能力を身につけ、情報処理に関する専門的知識と技能を活用して社会に貢献できる人材を育成する。 （３）家 政 科 生活に関する専門知識と技術を身につけ、生活産業分野に関するスペシャリストとして社会に貢献できる人材を育成する。
本校の生活信条	○ 挨拶（島商）しましょう。（心をつなぐ） ○ 掃除（島商）しましょう。（心をこめる） ○ 勉強（島商）しましょう。（向学心をもつ） ○ 部活（島商）しましょう。（心身を鍛える） ○ 奉仕（島商）しましょう。（思いやりの心をもつ）
前年度の成果と課題	（１）全生寮研修を通して、新入生には基本的生活習慣の確立へ向けた指導を徹底することができた。しかし、時間の経過とともに意識が薄れてしまう面が改善できなかった。今年度は全生寮教育についての職員研修を実施することができた。今後も継続して研修に取り組み、職員の共通理解や具体的な指導方法を確立させて、よりよい研修となるよう改善していく必要がある。 （２）生徒たちには資格取得に対して積極的に取り組む姿勢が見られ、上級取得や多冠賞の生徒が多かった。 家庭学習については、課題があるときだけ取り組む生徒が多く改善できなかったが、考査前に補講や自学を実施して基礎学力の定着を図った。 （３）生徒募集については定員割れの状況となり、本校の魅力や特色を中学生や保護者・中学校職員、地域に積極的にＰＲすることが出来なかった。 広報活動を徹底し、学校の取り組みや特色が地域に見えるようにしていく必要がある。 （４）今年度は、全職員でＩＣＴを活用した公開授業に取り組むことができた。また、全生寮教育に対する職員研修も実施して全生寮研修に対する職員の意識の共有化を図ることもできた。次年度も継続して取り組み指導力向上や、全生寮研修の充実に繋げていきたい。 （５）創立60周年記念式典は、各方面から協力していただき無事に終了することができた。また、記念体育大会や記念文化祭では、生徒たちが一生懸命に取り組み盛大に開催することができた。
本年度の重点目標	（１）基本的生活習慣の確立 （２）学力の伸長 （３）キャリア教育の推進 （４）地域に開かれた学校づくり （５）職員研修の充実 （６）学校組織の見直し

評価 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

【評価分野】 1 学校経営							
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	成果と課題
①学校教育目標	学校教育目標の具現化	学科に即した目標を設定し、教職員の共通理解のもとに目標を達成するための教育活動を行う。	商業科・・・ビジネスの基礎・基本の能力を身につけ、企業活動や流通に関する専門的知識と技能を活用して社会に貢献できる人材を育成する。	1	3.1	3.2	ビジネスの基礎・基本を普通教科で教えることはなかったが、基本的な計算力、思考力を養う授業展開はできた。基礎学習から島商トップまでの体系的な学習ができた。
			情報処理科・・・ビジネスの基礎・基本の能力を身につけ、情報処理に関する専門的知識と技能を活用して社会に貢献できる人材を育成する。	2	3.0	3.2	ビジネスの基礎・基本を普通教科で教えることはなかったが、基本的な計算力、思考力を養う授業展開はできた。社会に貢献できる人材の育成として、外部と連携した学習活動に新たに取り組んで良い成果が上がった。
			家政科・・・生活に関する専門知識と技術を身につけ、生活産業分野に関するスペシャリストとして社会に貢献できる人材を育成する。	3	3.1	3.2	生活に関する知識や技術を普通教科で教えることはなかったが、基本的な計算力、思考力を養う授業展開はできた。おおむね家庭科技術検定には合格できた。計画的に筆記試験の確認が必要である。
②学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	教育方針や教育目標等を生徒・保護者・地域等に説明したり、情報を流し、宣伝したりする機会を設け定員確保に努める。	4	3.1	3.2	授業の中身に関連させて学校や職業等について説明することができた。学校掲示板等を使い地域の方に行事などを見ていただいた。学校説明会やオープンスクール、広報紙等情報提供の機会が増加した。
			各教職員が経営方針を意識して教育活動を展開する。	5	2.9	3.0	キャリア教育推進を基本に検定等必要に応じて補習を行うことができた。担当教師や担任と情報交換を行うことができた。
③学年経営	学年目標の具現化	1年 島商生としての自覚を持ち学校生活に適應させる。	全寮教育を通して基本的生活習慣を確立させ、高校生活への適應力を養う。	6	3.0	3.0	生活面での課題も多少あったが、それよりも学習面での課題が多く見られた。授業の取り組み、欠点者への指導、基礎学力の定着など今後さらなる対策を講じる必要がある。
			キャリア教育を推進することで進路意識を高め、早期に進路目標を決定させる。	7	3.0	3.0	LHRや進路ガイダンスは、進路について考えるいい機会となった。進路講話では基礎学力の必要性や進路選択の方法を教えていただき、1年生における進路学習について理解することができた。
		2年 中堅学年としての自覚を促し、人格の陶冶に努めさせる。	日々の授業や家庭学習の充実を図り、学力向上に努めさせる。	8	2.0	2.0	口頭では指導しているが、具体的な取り組みができなかった。
			面談等を通じて、早期に進路目標を決定させ、その実現に向けて努力させる。	9	3.0	3.0	ある程度、具体的な進路目標を持っている生徒が多くなった。
		3年 最高学年としての自覚のもとに、創造力に富む心豊かな人間性の涵養を図る。	規則正しい生活の中で主体的に考え行動する自主・自立の精神を養う。	10	3.0	2.8	最後まで遅刻・欠席が目立った。
			進路指導の充実を図り、能力・適性を生かした進路選択を指導・援助する。	11	3.1	3.2	数名の未定者がいたが、情報提供や指導・援助は適切に行うことができた。
④学級経営	学級目標の具現化	学校目標や学年目標に沿った学級づくりを行う。	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。	12	3.1	3.2	基本的生活習慣、マナーを指導することができた。体育大会や文化祭などの行事に取り組むことでクラスがまとまった。

【評価分野】 2 教育活動							
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	成果と課題
①教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善ならびに適切な学習指導	各教科で効率的な学習を实践する。	毎日、1時間以上の家庭学習を習慣化し基礎学力の向上を目指す。	13	2.3	2.4	週末課題などの課題については、取り組みは良好であるが、自主的な家庭学習については、定着が見られなかった。基礎学力の向上に向けた対策を学年と教科が連携して取り組んでいく必要がある。
			毎学期、ICTを活用したわかりやすい授業を实践する。	14	2.9	2.9	電子黒板が導入され、機器を活用した授業を行いやすい環境となり、多くの授業で活用されてきた。更に動画やアニメーションを用いた授業に取り組んでいきたい。
		三年間を見通した目標を設定し、計画的な高資格取得を目指す。	各種検定の合格률을上げ、全商検定1種目以上1級を取得させる。	15	2.4	2.4	1級の合格률을上げるために、復習プリントを宿題として出すなど行ったが、合格률을上げることはできなかった。商業科・情報処理科の1級取得者割合は62.9%であった。
			家庭科検定の合格률을上げ、被服・食物・保育検定で1種目以上1級を取得させる。	16	3.3	3.8	今年度の3年生は四冠王8名、三冠王15名（四冠王8名を含む）と健闘してくれた。また、全員が1種目以上の1級を取得することができた。保育検定家庭看護1級全員合格ができた。
			英語検定・漢字検定の合格률을上げる。	17	2.4	2.6	漢字検定の受験者数は前年度にくらべると3割増えたが、合格률은横ばい状態であった。早めの取り組みを促し、合格률을上げていきたい。合格률을上げるためではなく、「読む・聞く」を強化できるよう授業を工夫していきたい。
②特別活動	HR活動や生徒会活動・学校行事の充実	生徒自身による自発的な活動を実践する。	各ホームルーム委員の積極的活動と校内外における一人一役を推進する。	18	3.1	3.2	一人一役を目標に、係り分担をさせながら頑張らせることができた。
			生徒会・家庭クラブ活動を活性化して、地域行事やボランティア活動に積極的に参加する。	19	3.5	3.1	ボランティア活動として、島原図書館・淡々荘・スマイル・銀の星・愛児保育園等で、土曜日・木曜日の夕方に月2回ほど活動をした。生徒は楽しみながら積極的にリサイクル活動やあいさつ運動に意欲的に取り組んだ。
③生徒指導	基本的な生活習慣の確立	全生寮教育の充実を図り、全教職員による継続した指導を徹底する。	授業の折には必ず礼儀作法・服装・学習態度（遅刻時の指導も含む）など具体的指導に努める。	20	3.2	3.2	挨拶・容儀については、授業開始時や職員室への入退室時に指導を行っているが、まだまだ指導が必要である。定着させるまで全職員で取り組む必要がある。
			交通ルールの遵守と自転車の二重ロックの徹底に努める。	21	3.5	3.5	全体的には徹底しているが、一部の生徒が忘れることがあった。
④進路指導	個々の生徒の能力の伸長と適性を活かす進路指導を図る	三年間を見通した効果的なキャリアガイダンスを実施する。	生徒、保護者への進路ガイダンスの実施と充実を図る。	22	3.0	3.3	学年毎に生徒に対して進路ガイダンスを実施し、進路の意識付けに繋がった。保護者対象の進路説明会を学年毎に開催し半数以上の出席であった。
			生徒、保護者への進路情報をこまめに提供する。	23	2.9	3.3	「進路だより」を隔月で発行し、説明会で進路情報を提供した。三者面談を実施して、進路の情報を提供することができた。
			新たな進路先（企業・大学）の開拓を図る。	24	3.0	4.0	多くの就職説明会に参加し、個々の企業との緊密な関係がより強まり多くの企業に新規求人を受けた。

⑤健康・安全教育	健康や安全に対する態度の醸成	健康・安全についての正しい知識と理解を深める。	健康診断など保健行事を円滑に実施し、生徒の理解に努める。	25	4.0	4.0	先生方の協力により、各種健診をスムーズに実施することができた。
		心身の健康の保持増進を実践できる生徒を育成する。	担任・部顧問・カウンセラー部との連携を図り、早期問題解決にあたる。	26	3.0	3.0	様々な理由で保健室に来室する生徒に対して、適切な対応を取ることができた。また、必要に応じて担任・部顧問・カウンセラー部と連絡を取った。
⑥人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	人権尊重に関する様々な課題を認識させ、解決のための実践力を身に付けさせる。	人権教育の学習を通し、全生徒・職員の意識を高める。	27	3.0	3.0	2回の人権教育を実施した。来年度は他の分掌との連携を図り計画していきたい。
		カウンセリングの充実	生徒理解のための諸検査を実施し、個別面談に活用する。	28	2.0	3.0	今年度もシグマ検査を実施し、業者から担任へ活用についての説明会を実施した。今後も説明会等を実施して有効活用に繋げていきたい。
	担任・他分掌・学年との連携を密にし、いじめやメール等の嫌がらせ・不登校の根絶を図る。		29	3.0	3.0	通常の観察に加え、悩みアンケートを実施した、今後も教員間の情報交換等を定期的に行い、いじめ・不登校の早期対応に努めてたい。	
⑦特別支援教育	特別支援教育体制の整備	特別な教育的支援を必要とする生徒に対する支援体制の充実を図る。	校内委員会の設置、支援教育コーディネーターを中心に、必要に応じて職員の指導力の向上を目指して研修を実施する。	30	3.0	3.0	年3回の特別支援教育推進委員会を実施し、情報の共有を行った。職員研修も実施した。
⑧部活動	部活動の活性化	部活動の計画的かつ効率的な活動を目指す。	「全員部活動の日」の定着と部活動の活性化を図る。	31	3.2	3.0	毎週火曜日に設定された全員部活動制は定着した。しかし、部活動に参加できない生徒もいるため、その生徒達への指導を併せて行った。

【評価分野】 3 組織運営							
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	成果と課題
①校務分掌	適切な役割分担・組織的な活動と運営	各自の役割分担を明確にして、適切に仕事を処理する。	校務支援システムを有効に活用し仕事の負担軽減を図る。	32	3.2	3.0	業務の効率化は図られている。活用方法の資料の整理は引き続き必要である。
			学校全体の校務が円滑に推進できるように、分掌相互間の連携を図る。	33	2.9	3.1	ミーティングや各種委員会の実施により、分掌相互間の連携を図ることができた。
②各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置とその運用	各種委員会の活動の効率化と活性化を図る。	各種委員会での協議結果を、教育活動や学校経営に生かす。	34	3.0	3.2	各委員会からの報告を職員会議で行い、情報の共有をおこなうことで、職員間の協力体制や情報の共有ができた。
③校内研修	研修体制の確立と実践	職員研修の充実を図る。	全員、年に1回以上はICTを活用した授業を公開する。	35	3.1	3.2	ほとんどの授業でICTを使用することができた。プロジェクトを活用した授業を公開することができた。
④教職員教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター等の研修に積極的に参加する。	各種公的研修会へ積極的・計画的に参加し、資質の向上と意識改革を図る。	36	2.7	2.6	教科により研修会への参加にばらつきが見られた。各教科で検討して計画的な取り組みをしていく必要がある。

【評価分野】 4 教育環境							
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	成果と課題
①学校環境の整備	潤いのある生活環境・教育環境の整備	清掃活動を通じ、協調性や奉仕の精神を養い、創意工夫の心を培う。	全校生徒、全教職員で積極的に清掃活動に取り組む。	37	3.1	3.3	真面目に掃除に取り組む生徒が多く見られたが、大掃除時の更衣などが徹底できない面も見られた。
②施設・設備の管理	施設・設備の安全管理と経費の節減	施設・設備の有効活用を図り、安全点検等の管理を適切に行う。	施設設備の安全点検を計画的に行い、必要に応じて改修や補修を行う。	38	3.0	3.3	施設設備の安全点検は計画的に実施出来ている。毎年度、予算要求をしているが県からの令達がないため執行できていないものがある。継続して、次年度も要求していきたい。
			水道・光熱費、通信費等の節約に努める。	39	3.3	3.3	デマンド数値上昇の為、光熱水費が上昇している。学校全体でさらなる節約に取り組んでいく必要がある。
③情報インフラの整備・充実	教育活動全般の情報化	情報機器等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンとプロジェクターを使いこなせるように努力すると共に、教科指導などに活用する。	40	3.1	3.3	多くの授業でパソコン・プロジェクターを活用している。次年度も全職員で取り組んでいきたい。
	ホームページの更新	学校の情報発信源とし、PRの手段とする。	ホームページを見やすくし、定期的に更新し最新情報を伝達する。	41	4.0	4.0	担当の迅速な対応で、定期的に更新できている。

【評価分野】 5 開かれた学校づくり							
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	成果と課題
①保護者との連携	PTA活動の充実	積極的に学校を開放し、地域からの信頼と理解を図る。	本校の教育活動を積極的に公開し、保護者や地域から信頼と理解を深める。	42	3.0	2.5	学校開放・公開授業という点では、保護者の方に来ていただく機会が少ないのは課題である。
		PTA活動を活性化する。	PTA総会や諸活動への参加率を上げる。	43	3.0	3.1	2回の総会や各種委員会活動、豚汁作りやコーサージュ作りなどの参加率は毎回高く、保護者の積極的な姿勢はありがたかった。
②地域や関係機関との連携	学校間の連携の充実	他校や異校種との効果的な連携を図る。	県内の大学、近隣地域の高校・中学校との情報交換や連携を図る。	44	3.0	3.0	例年通り中学校との連携はある程度図ることができた。
	外部講師の招聘	外部講師を効果的に活用する。	地域の人材を専門教科やHR等において効果的に活用する。	45	3.7	4.0	今年度も民間講師に来ていただき普段の授業ではできないことをしていただいた。
	学校評議員との連携	学校評議員会を充実させる。	運営方針等学校評議員の意見を聞き学校運営に反映させる。	46	3.0	3.0	

【総評】

評価の結果 (課題と問題点)	全生寮研修については、計画どおり実施し基本的生活習慣の確立に向けた指導を実践することができた。全生寮研修で学んだことを日々の生活に活かしていくための指導を充実させていかなければならない。
	家庭学習の習慣化に向けた取組として、1年生では週末課題を実施したが、家庭学習時間の増加や授業中の集中力の向上が見られた。今後、年間を通した指導を行っていかねばならない。また、家庭学習の必要性について生徒達にしっかり自覚させる指導を継続していく必要がある。
	今年度もI C Tを活用した授業に取り組んできたが、多くの授業で活用されてきている。次年度もI C Tを活用した分かりやすい授業の実践に取り組んでいきたい。教科による研究授業も実施することができたが、次年度も計画通りに実施し授業力の向上に努めていきたい。
	各担当による職員研修は予定通り実施できた。特に今年度は数年ぶりにA E D研修も実施することができた。今後は計画的に実施して、全職員が緊急時に適切に対処できるようにしていきたい。
	校務分掌の見直しに取り組んできたが、4分掌へ統合することとなった。分掌の再編成に伴い、仕事内容の必要性等について検討していきたい。
来年度の改善策	全生寮教育については、新指導体制の下で全職員による指導により基本的生活習慣の確立へ取り組んでいく。また、全ての教育活動や学校生活の中に全生寮教育の主旨を結び付けながら、三年間継続した指導を行っていく。
	基礎学力の向上および家庭学習の習慣化に向けて、年間をとおした週末課題の実施に取り組む。また、マイルストーンの活用を通して、スケジュール管理能力を身に付けさせる。
	校門前掲示板を活用した広報活動の推進や、広報紙の中学校への配付を計画的に実施して本校の教育活動をアピールし、選ばれる学校を目指していく。
	校務分掌の統廃合に伴い、各分掌内の業務内容を再確認し削減や配置転換について見直し再構築を図る。
	各教科による研究授業を計画通り実施して、分かる授業の推進と指導力向上を図る。また、全職員によるI C T機器の活用に取り組む。